２０１６年（平成２８年）３月２２日　火曜日

デーリー東北新聞　１０面　掲載

光星 主導権渡さず

第88回 選抜高校野球大会

――第2日

第88回選抜高校野球大会第2日は21日、甲子園球場で1回戦3試合が行われ、釜石（岩手）龍谷大平安（京都）八学光星が勝ち、2回戦に進出した。

釜石は2―1で小豆島（香川）との21世紀枠対決を制した。釜石は甲子園初勝利で、岩手勢は春通算10勝目。龍谷大平安は7―1で明徳義塾（高知）を下した。

序盤で主導権を握った光星は、開星（島根）を6―2で破った。光星は3年連続の初戦突破。2回戦は第7日の26日、龍谷大平安とぶつかる。

「冬の成果」開星・吉川を攻略

ハイライト

3年連続の初戦突破を果たした光星。好投手を10安打で攻略し、チームが目指す「強打、猛打の光星復活」を印象付ける快勝だ。奥村幸太主将は「冬に振ってきたから点を取れた」と充実感をにじませた。

初回、理想的な攻めを見せた。常時、140㌔超の速球をうならせる開星の先発吉川貴大に対し、先頭伊藤優平がストレートの四球を選ぶと、昨秋の8番から2番に打順を上げた奥村がきっちり送りバント。田城飛翔の進塁打を挟み、益田敦成の内野安打でそつなく先制した。

二回には、打撃強化に励んだ冬の鍛錬の真価を発揮。好調を維持する2年小池智也、公式戦初先発となる徳田大沙の8、9番に連打が生まれるなど、4安打を集めて2点を加えた。1点差の五、六回も打線がつながり貴重な追加点。6得点は全て、適時打で挙げた。

4番に座る益田は「（当たり損ねだった）初回もヒットはヒット。あれでリラックスできた」。五回1死一、二塁の好機には中前に運ぶ適時打を放ち「冬に振り込んできたので、みんな自信を持っていた」と胸を張った。昨秋の東北大会は不振だった自らにも、大きく当てはまる言葉だ。

「寒い八戸で練習してきた冬の成果を証明したかった。選手は思い切ってやってくれた」とたたえた仲井宗基監督。甲子園で「3季連続準優勝」を遂げた世代に憧れ、入学してきた部員が今の3年だ。当時の代名詞だった猛打を、再び全国にとどろかせる時が来た。（二戸康成）

【開星―八学光星】５回光星１死一、二塁、益田敦成が中前に適時打を放ち、４―２とリードを広げる＝甲子園

1回戦

◇八学光星―開星（13時45分、三万二千）

開星（島根）　002000000｜2

八学光星　12001200×｜6

（開）吉川―元谷

（光）櫻井―奥村

▽二塁打　福間、奥村▽犠打　門脇2、奥村、小池▽盗塁　伊藤▽失策　門脇2、小日出、小林▽暴投　吉川

▽試合時間　1時間47分

【評】光星は初回、先頭伊藤の四球を皮切りに、奥村の送りバントなどで2死三塁とし、益田の内野安打で先制。二回は2死一、二塁から徳田、伊藤の連続適時打で3―0とした。1点差に迫られ迎えた五回は1死一、二塁で、益田が中前に適時打を放ち追加点。六回は伊藤と奥村の適時打でリードを広げた。

先発櫻井は三回、球が高めに浮き2点を失ったものの、四～七回は無安打に封じるなど、尻上がりに調子を上げ完投勝利。走者を許しても要所を締め、9奪三振の力投を見せた。

【開　星】		打	得	安	点	振	球	犠	盗	失	打率
⑧	近藤	4	1	1	0	1	1	0	0	0	.250
⑥	門脇	2	0	0	0	1	0	2	0	2	.000
③	瀬戸口	4	0	1	0	2	0	0	0	0	.250
⑦	福間	4	0	2	2	0	0	0	0	0	.500
⑤	尾崎	4	0	1	0	1	0	0	0	0	.250
①	吉川	4	0	0	0	2	0	0	0	0	.000
⑨	細田	2	0	0	0	1	0	0	0	0	.000
H9	加納	1	0	0	0	1	1	0	0	0	.000
②	元谷	2	0	0	0	0	1	0	0	0	.000
H	岡崎	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1.000
R	田辺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	―
④	葉田	4	1	1	0	0	0	0	0	0	.250
	計	32	2	7	2	9	3	2	0	2	.219

【光　星】		打	得	安	点	振	球	犠	盗	失	打率
④	伊藤	3	2	2	2	1	1	0	1	0	.667
②	奥村	2	1	2	1	0	1	1	0	0	1.000
⑨	田城	3	0	0	0	0	1	0	0	0	.000
⑤	益田	4	0	2	2	0	0	0	0	0	.500
①	櫻井	3	0	1	0	1	1	0	0	0	.333
⑦	小日出	4	1	0	0	0	0	0	0	1	.000
⑥	小林	4	0	1	0	0	0	0	0	1	.250
⑧	小池	3	2	1	0	1	0	1	0	0	.333
③	徳田	4	0	1	1	0	0	0	0	0	.250
	計	30	6	10	6	3	4	2	1	2	.333

投手	回	打	投	安	振	球	失	責	防御率
吉川	8	36	137	10	3	4	6	4	4.50
櫻井	9	37	140	7	9	3	2	2	2.00

完投した光星の主戦櫻井一樹

櫻井 集中力切らさず力投

○…エースが力投で期待に応えた。光星の櫻井一樹は高低に散らした投球で相手打線に的を絞らせず、八回以外毎回の9奪三振で勝利を手繰り寄せた。

「体が浮つく感じがあった。最初は真っすぐのコントロールが駄目だった」。初回、先頭に四球を与えたり2死から連打を浴びたりと、不安定な立ち上がり。

三回は2死二、三塁から相手の4番に左中間へ運ばれ、1点差とされたが「まだ勝っている。もう一度、脚をしっかり使って投げよう」。手投げになっていたとの自覚から冷静に切り替え、四回以降は相手に三塁を踏ませなかった。

中盤に味方がリードを広げ、「普段なら落ち着ける展開。でも甲子園では最後まで気が抜けなかった」と打ち明けた櫻井。集中力を切らすことなく、27のアウトを重ねた。

3度出塁 伊藤「いい仕事」

○…「1番として塁に出て相手にプレッシャーをかけるのが役割。いい仕事ができた」。昨秋の2番から先頭に打順を変えた光星の伊藤優平は4打席で3度出塁し2得点。2本の適時打も放ち、チームを勢いづける活躍に納得顔だった。

六回、初球で決めた盗塁にも大きな手応えを得たようで「2死一塁から二塁に行ければ、一気にプレッシャーをかけられる」。その言葉通り、次の投球で暴投を誘い三進。打席の奥村幸太が三塁へ打ち上げた打球が風に流される幸運な安打となり、6点目のホームを踏んだ。

6回光星2死一塁、一走の伊藤優平（右）が盗塁を決める

18小池、16徳田 背番号２桁の２人が活躍

○…背番号18の小池智也と16の徳田大沙。初戦は、ともに2桁番号を背負う2選手がスタメン出場。二回、連打で得点に絡む活躍を見せ、勝利に貢献した。

二回2死一塁、小池は「思った以上に緊張せず落ち着けていた。甘く入った直球を振った」と右前打で一、三塁と好機を広げると、関西入りしてから調子が上向きだったという徳田も「とにかく思い切り振った」と左前適時打で続いた。徳田は「打った瞬間うれしくて、思わずガッツポーズが出た」と満足げだ。

次戦に向けても「雰囲気にのまれず、自分の打撃を」（小池）、「長打を狙わず、低い当たりを心掛ける」（徳田）と意欲的だった。

２回光星２死一、二塁、徳田大沙が左前適時打を放ち、２―０とする

２回光星２死一、二塁、伊藤優平の中前適時打で二走の小池智也が生還し３―０とする

マネジャーの思い

○…光星には新3年の女子マネジャーが3人いる。坂本玲奈さん（白山台中出）、出川未来さん（湊中出）、大久保美波さん（階上中出）だ。普段は3人で仕事を分担しながら選手をサポートしており、記録員として甲子園のベンチに入るのは1試合ごとの「ローテーション制」という。

初戦でベンチに入ったのは坂本さん。初めての甲子園のベンチに「選手より自分が緊張してしまったが、しっかり仕事は果たせた」と充実した表情だ。

出川さんと大久保さんはスタンドで応援団と一緒に声援。出川さんは大舞台に立つ仲間に「いつもよりも強く見える。一試合一試合勝ち進んでほしい」と祈るように戦況を見詰めた。

坂本さんは「頑張って勝ち進み、3人全員がベンチに入れたらいいな」と期待していた。

後輩の戦いぶりを見守る前チームの中川優（右）と中崎寿希也

前チームメンバーも声援

○…特別な思いを胸にスタンドから戦況を見詰めていたのは最後の夏に甲子園出場を逃した、光星の前チームのメンバーだ。

夏まで主砲としてチームを引っ張った中崎寿希也は「自分たちの代より断然バッティングがいい。まとまりがあって、強い雰囲気がある」と後輩の試合運びを頼もしそうに見詰めていた。

無事に初戦を突破し、２回戦の相手は龍谷大平安（京都）。第86回大会２回戦で敗れている相手だけに、主戦だった中川優は「（２年前は）自分が投げて負けている。後輩たちにはぜひ勝ってほしい」と悲願を託した。

中川は大阪体育大、中崎は奈良学園大でそれぞれ野球を続ける。２人とも「大学に行っても野球を頑張る」と話していた。

デーリー東北新聞社提供